

【愛知県飛島村】

校務 DX 計画

飛島村では校務支援システムや学校外から校務系ネットワークに接続できるドングルを導入し、教員の働き方改革を進めてきた。また、授業支援ソフトウェアや学習 e ポータル等を活用し、生徒への各種連絡のデジタル化を進めてきた。

しかしながら、令和 5 年度の「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果では、特に教員と保護者間の連絡のデジタル化が進んでいない状況にあることが見て取れるほか、全国的に比較すると保護者との連絡にクラウドサービスを活用することや、教員個人へのメールアドレスの付与ができていない状況であった。

また、依然として教育委員会や事業者との紙ベースや FAX でのやりとりが見受けられるが、業務の円滑化・効率化の観点から、これらの業務のデジタル化・ペーパーレス化を推進するための取組みについて、以下のとおり定める。

1. ゼロトラスト環境の構築

現在、飛島村では生徒の個人情報を取り扱う「校務系」、インターネットにアクセスして外部とのやり取りを行う「校務外部系」、生徒が教育活動で利用する「学習系」の 3 つのネットワークに分離しており、このうち「校務系」は VDI で接続するようにして外部からのアクセスができないようにする境界分離型の環境を構築している。

しかしながら、境界分離型ではデータの連携が困難であることから、不必要な手入力による作業が発生していたり、ペーパーレス化への阻害要因となっていたりすることが考えられる。

そこで、次期更新時の令和 8 年 3 月から次世代の校務システムとしてゼロトラスト型のネットワークへ移行、学習系と校務系ネットワークを統合してデータをクラウド管理することで、業務の効率化とペーパーレス化を推進していく。

また、現行のセキュリティポリシーの見直しや、アクセス制御によるセキュリティ対策、機微な情報の取り扱いに際しての注意喚起を行っていく。

2. 教員と保護者間の連絡のデジタル化

教員の保護者対応への負担軽減や、ゼロトラスト環境により業務のロケーションフリー化を実現した際に、保護者との連絡を行うためには連絡のデジタル化が必須となる。そのため、汎用クラウドツールを活用して教員と保護者間の連絡を行うことができる仕組みを整備していく。

3. FAX 及び押印の見直し

業務における FAX の使用や、押印・署名が必要な書類が有る状況は、学園単体で改善することが難しい。学校と保護者、教育委員会や外部業者等との文書のやりとりをクラウド化・ペーパーレス化できるよう、署名・押印が必要な文書の見直しや、学校と紙ベースでのやりとりをしている事業所へ慣行の見直しを依頼するなどして改善を図る。